

## 2025年2月16日(日) 第二礼拝「神に対する戒め」出エジプト 20章 1～11節

建国記念日にデイビィ・ハザマ氏が、この日本に神の国(政府)が建てられることを預言しました。神の国は、統治者の王と国民からなり、そこには御国の法と土地があります。

第一番目、「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。」(本文 2 節) 救いとは、「神の国を受け継いだ」という意味です。奴隷から解放され、自由になったのです。イスラエルは、その統治者がパロから神様になり、奴隷の国から神の国の支配に、サタンの支配からイエス様の支配に移されたのです。王様がイエス様であり、その神の国の法は十戒です。一戒～四戒は「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして神様を愛すること」、五戒～十戒は「あなたの隣人をあなた自身のように愛すること」です。愛は恵みであり、自由です。私たちが真理を知る時、真理は私たちを自由にします。

第二番目、イエス様を愛することです。イエス様は私たちに自由と愛を与えてくださいました。イエス様の御言葉、十戒を守る力は、神様の愛から来ます。律法の完成は愛だからです。ですから、神様を愛する者にとって、戒めは重いものではありません。私たちが救ってくださった神様の愛に応答して、私たちが神様を愛するのです。私たちは主と愛し合い、一つになり(結婚)、イエス様の花嫁へと変えられるのです。私たちに、イエス様以外に愛する方はいません。「…わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。…偶像を造ってはならない。…」(本文 3～4 節) 私たちが他の神々(イエス様以外のもの)を愛する時、自由を奪われ、再び奴隷になってしまいます。そして、誤ったことばで縛られ、呪いを身に帯び、先祖の祟り、方角や日付の祟りを信じるようになってしまうのです。しかし、イエス様は十字架において、それらの呪いを全て処分して下さり、私たちにアブラハムの祝福を与えてくださいました。「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す…」(本文 6 節) 神様を愛する時、千代(永遠)まで祝福されると約束されています。私たちが神様を深く愛し、親密になることを、神様は願っておられます。愛は、私たちを変革し、喜びといのちで溢れさせ、自由と幸福感を与えてくれます。また、主を愛する者は、主の御名をみだりに唱えません。主の御名は救いの約束であり、主の御名を呼ぶ者は救われます。

第三番目、「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。」(本文 8 節) 神様は、六日間で天地万物を創造し、六日目に人間を造られました。七日目に神様が安息される時、人間もまた安息に入りました。人間は、神様と安息するために造られたのです。安息とは、神様を深く愛する礼拝、神様との愛の交わり、神様と一つとなることです。その安息の中で、私たちに再創造が起こります。神様が、四十年間イスラエルを荒野で訓練されたのは、安息日を守るためでした。マナを集める時、安息日のために、前日に二倍のマナが与えられ、それらは翌日(安息日)になっても腐りませんでした。他の日は、翌日までマナを残すなら腐ってしまいました。四十年間の荒野は、安息日の重要性を学ぶ旅路だったのです。この安息日を守る時、私たちが聖霊を受け、この世に打ち勝つ力を受けることができるのです。アーメン！